

令和 5 年10月現在

プロジェクトの詳細

開庁	: 令和5年10月10日
人口	: 約3,769,200人
対象人員	: 約330人
延べ床面積	: 本館 約11,412.54㎡
建物概要	: 1階柱頭部中間層免震構造 本館 地上7階、地下1階 塔屋2階
委託業務	: 横浜市消防本部庁舎整備に 伴うレイアウト業務委託



ABWスペース

執務室内に各種ABWスペースを配置し、業務内容や気分に合わせて、主体的に働く場所を選択し、生産性の向上を目指す。

横浜市消防局は、旧保土ヶ谷消防署跡地に新消防本部庁舎を整備しました。新庁舎では、大規模災害時であっても消防機能の継続性を維持するため、免振構造を採用し、消防司令センターを一体的に整備したほか、緊急消防援助隊と連携強化するため、屋上にヘリパッドを整備しています。

また、ワークプレイスにおいても消防部門初のさまざまな取り組みがなされており、注目が集まっています。

職員が働く執務室では、課長職を含めたユニバーサルレイアウトを導入、無線LAN環境を導入することで場所に捉われない働き方やペーパーレスの観点からワゴンレスの運用とし、部門の情報や知識を共有しやすい環境としました。加えて、業務内容により主体的に働く場所を選択するABWスペース（集中スペース、ファミレスブース、コミュニケーションエリア他）を配置することで、業務の効率化や職員同士の連携に繋がっています。



エントランス 来庁者を明るい雰囲気を出迎え、入退館管理システムにより来庁者と職員の領域を明確にすることでセキュリティを強化。



打ち合わせスペース セキュリティを確保するため執務スペース外に設けられた来庁者用打ち合わせスペース。モニターやホワイトボードを配置し、効率的な打ち合わせが可能に。

さらに、緊張を強いられる消防職員の業務において、職員のストレスの軽減とモチベーション向上につながるよう「健やかに働ける環境整備」にも配慮しました。各所にインテリアグリーンを配置し、家具什器は自然色をベースとしアクセントカラーを取り入れることで、安らぎとやる気を生み出し、健康的に生き活きと働ける工夫がなされています。

消防本部機能が強化され、職員の能力を最大限に発揮できるよう整備された新庁舎完成により、その役割を十分に果たすことに努め、市民の安全・安心に繋がることを目指します。



オカムラHPでも
ご覧いただけます



執務室

課長席を含めたユニバーサルレイアウトを導入。1200口の単体デスクを採用することでフレキシブルな運用が可能であり、将来変化や非常時の組織編成にも柔軟に対応できる。



執務席

1人当たりW1200D600の机上面を利用。ハンガー付き椅子・ワゴンレスの運用とし、個人物品はモバイルバックに収納し、就業時は机下のフックに掛ける。



個人ロッカー

終業時には、モバイルバックを個人ロッカーに収納。収納内で充電可能(PC・PHSなど)、配布物の投函口、プッシュ錠仕様などを採用し、運用面にも配慮。



コミュニケーションエリア(ABWスペース)

執務室中央に配置することで部門を超えた交流を促し、職員同士の連携強化を目指す。



ファミレスブース(ABWスペース)

背面パネルにより、緩やかに視線を遮ることができ、リラックスしながらも集中できるスペースを構築。



窓側カウンター席(ABWスペース)

窓側に配置し、個人の集中作業や横並びでのペアワークなどに最適スペース。天板下に電源を設け、運用面にも配慮。



オープンミーティング(ABWスペース)

座席の高低差を利用し、複数名でモニターを利用した打合せが可能。会議室へ移動することなく、瞬時に情報共有ができる。



デュオスペース(ABWスペース)

対面ではなく横並びで利用することにより、心理的な緊張を緩和します。またモニターを共有しやすくペアワークに最適。



共創スペース(ABWスペース)

全部署のメールコーナーに隣接しており、庁内外の職員利用が可能。部門を超えた交流やコミュニケーションを促す。



ソロワークスペース(ABWスペース)

背面パネルを設置し視線を遮り、窓面に接した場所にソファを配置することで、執務室内に緊張を緩和するスペースを構築。



リフレッシュスペース

執務室のあるフロアの窓側に設置。ON⇄OFFの切り替えを執務スペース内でも可能に。隣接する部門の交流を創出。



休憩室

執務室外に設け、気分の切り替えを促す休憩スペース。インテリアグリーンや家具には自然色を採用し、緊張感を和らげる空間を構築。